Ⅳ　研究の実際と考察

1　検証授業計画

(1)　題材名

「美しい合唱のひびきを」

(2)　学習計画（総時数25時間）

	次	時	ね　ら　い	仮説との関連
ふしと低音	1	1 ～ 8	◎　旋律と低音の響きを感じ取りながら表現したり、聴いたりすることができる。 ・　ヘ音記号を理解し、低音奏に慣れる。 ・　旋律と低音の響き合いを感じ取り、意識しながらアンサンブルの工夫をする。 ・　低音と合唱の響き合いを感じながら演奏する。 ・　旋律と低音の動きに関心を持ち、響きの美しさを味わう。	・　根音を副次的旋律として旋律に合わせた歌唱表現 ・　階名視唱による三部合唱 ・　音の重なりを楽しみながらの根音唱 ・　旋律と低音の響き合いを意識しての鑑賞
ふしと和音	2	1 ～ 8	◎　旋律と和音の関わり合いに気づき、和声の響きの変化を感じ取りながら、表現したり聴いたりすることができる。 ・　和音の響きの違いを感じ取りながら表現の工夫をする。 ・　旋律と和音の音の重なりを感じ取る。 （検証Ａ・５／８） ・　旋律に合う和音や低音を使って伴奏の工夫をする。 ・　場面を思い浮かべたり、響きの感じを味わいながら鑑賞する。	・　和音の聴きわけと和音伴奏に合わせた三部合唱 ・　和音を意識した三部合唱 ・　和音進行に合わせ、音を分担しての合唱
合唱のひびき	3	1 ～	◎　歌声による和声の響きや流れを感じながら合唱の美しさを味わう。 ・　意欲をもってパート練習に取り組む。 ・　曲想を生かして美しい響きの三部合唱をする。 ・　グループ毎に曲を選び学習計画を立てる。 ・　曲想を生かした合唱現の工夫をする。 （検証Ｂ・７／９） ・　音楽会をする。	・　声による音の響き合いに関心を持つ鑑賞 ・　音程の安定した合唱表現 ・　美しい響き合いをめざした合唱表現の工夫 ・　声が溶け合う美しさを味わう表現や鑑賞

2　検証授業の実際

(1)　検証Ａ

①　教材「静かにねむれ」

②　本時のねらい（13／25時）

旋律と和声の響き合いを感じ取ることができる。

③　授業仮説

「静かにねむれ」の旋律に合わせた和声を合唱で創りあげる活動を経験することにより和声感が身に付いていくであろう。

④　実践の概要

ここでは、和音進行を合唱で表現する活動を取り入れた。Ⅰ度・Ⅳ度・Ⅴ度の和音を高音部・中音部・低音部に分け、自分でパートを選んでグループを作り、それぞれ練習し全員で合わせることによって和音の響きを味わう活動である。

まず、パート練習を階名で行い、慣れてきたら自分たちで判断し「ア」や「ウ」で歌わせた。児童は、階名唱では大体正確に歌うことができたが、言葉になるとやはり音程が不安定であった。なかでも中音部が難しく、なかなか和音ができなかったが、だんだん慣れてくると他のパートにつられるという児童も少なくなった。最後には旋律を歌うグループを作り、旋律と和音伴奏という四部合唱で演奏した。この後の授業でも音の受け持ちをかえるなどして「静かにねむれ」をこのようにア・カペラの四部合唱で演奏することを取り入れた。

(2)　検証Ｂ

①　教材「児童の選んだ曲」

②　本時のねらい（23／25時）

自分なりの曲のイメージをもちながら、協力して表現の工夫をしようとする。

③　授業仮説

これまでの過程において児童に和声感が育ていれば、グループ学習において、音程のみ